

令和元年度 第1回

山梨県考古博物館協議会資料

(次 第)

- 1 開 会
- 2 委嘱状・任命状交付
- 3 委員紹介
- 4 事務局職員等紹介
- 5 副会長選任
- 6 議 事
 - (1) 平成30年度 考古博物館事業実績について
 - (2) 令和元年度 考古博物館経過・予定事業について
 - (3) 考古博物館利用状況について
 - (4) 委員提言に対する対応・検討状況について
 - (5) その他
- 7 その他
考古博物館所蔵縄文土器の盗難事案について
- 8 閉 会

令和元年7月26日(金)

山梨県立考古博物館
風土記の丘研修センター

資 料 目 次

◇ 平成30年度 考古博物館事業実績について	
1 展示活動	1
2 学習会・講座など	3
3 イベント	6
4 学芸員実習・職場体験・インターンシップ.....	8
5 古代衣装貸し出し.....	8
6 ボランティアガイドの実施	8
◇ 令和元年度 考古博物館経過・予定事業について	
1 展示活動	9
2 学習会・講座など	10
3 イベント	12
4 学芸員実習・職場体験・インターンシップ.....	13
5 古代衣装貸し出し.....	13
6 ボランティアガイドの実施	14
◇ 考古博物館の利用状況について	
(1) 観覧者数（常設展・特別展）	15
(2) 特別展観覧者数	16
(3) 学校関係利用状況	17
(4) 総利用者数	18
◇ 委員提言に対する対応・検討状況について	19
◇ 山梨県考古博物館協議会委員名簿	22
◇ 山梨県附属機関の設置に関する条例等（抜粋）	23

◇ 平成30年度考古博物館事業実績について

1 展示活動

(1) 開館35周年記念特別展『古代アンデス文明展』

会 期：5月19日（土）～7月16日（月・祝） 開催日数：51日

会 場：山梨県立考古博物館

入館者：25,981人

概 要：「黄金の都シカン発掘展」、「世界遺産ナスカ展」、「インカ帝国展」など、国立科学博物館とTBSテレビが20年以上にわたって行ってきた「アンデスプロジェクト」の集大成として開催しました。古代アンデス文明を代表する9つの文化を取り上げ、アンデス文明が長い年月の間にどのように発達し、何を成し遂げ、どのような遺産を後世に残したのかについて、考古学、人類学それぞれの視点から紹介し、考古博物館開館35周年を記念して、海外の優れた考古資料についての学習の機会を提供しました。

(2) 企画展

① ゴールデンウィークミニ展示『繁栄を迎えた酒呑場遺跡』

会 期：4月21日（土）～5月6日（日） 開催日数15日

会 場：考古博物館多目的室

入館者：2,209人

概 要：国指定重要文化財「酒呑場遺跡出土品」の保存修理事業により、当時の姿を取り戻した造形美豊かな美しい土器などを紹介しました。

② 夏季企画展『願いをかなえてほどけさまー甲斐の古代寺院ー』

会 期：7月28日（土）～9月2日（日） 開催日数33日

会 場：考古博物館多目的室

入館者：4,377人

概 要：古代甲斐における仏教の導入と展開について紹介します。新しい信仰体系がどのように受容され、古墳時代から奈良・平安時代にかけてどのように浸透していったかを考古資料から紹介し、現代に与えた影響について理解を深める機会とします。夏休み期間中の開催であることから、会期中は小・中学生を対象にスタンプラリーイベントを開催し、ワークショップなどを予定しています。

③ 秋季企画展「うずまくみずのかたちー水煙文土器の世界ー」

会 期：10月6日（土）～11月25日（日） 開催日数44日

会 場：考古博物館多目的室

入館者：5,789人

概 要：渦巻く水煙を思わせる文様が特長である水煙文土器は、国宝の火焰型土器にも劣らぬ躍動感と高い芸術性を秘めた造形美を持ち、山梨でも屈指の縄文土器のひとつです。展示では、県内で出土した水煙文土器を一堂に集め、縄文人の優れた感性と技術を紹介しました。

- ④ 冬季企画展「山梨市の出土品Ⅰ」
 会 期：12月15日（土）～平成31年1月27日（日） 開催日数31日
 会 場：考古博物館多目的室
 入館者：1,119人
 概 要：自治体に専門の施設を持たない地域の出土品を紹介する冬の企画展です。
 平成28・29年度の甲斐市に次いで、今回は山梨市の遺跡を紹介しまし
 た。
- ⑤ 新年干支展『亥』
 会 期：平成31年1月2日（水）～1月27日（日） 開催日数19日
 会 場：考古博物館エントランスホール
 入館者：763人
 概 要：干支にまつわる考古資料を紹介するミニ展示です。平成31年は「亥（イ
 ノシシ）」で、縄文時代のイノシシ装飾土器を展示しました。
- ⑥ 『第16回わたしたちの研究室・研究成果展示会』
 会 期：2月9日（土）～3月3日（日） 開催日数20日
 会 場：考古博物館多目的室
 入館者：986人
 概 要：県内の小・中学生のみなさんが考古学や歴史を学ぶ楽しさ知る機会とする
 ために、その研究成果を募集・表彰し、ご応募いただいた作品すべてを展
 示・公開していく事業で、平成15年度より実施しています。
- ⑦ 『富士山ミニ展示』
 会 期：2月9日（土）～2月28日（木） 開催日数17日
 会 場：考古博物館エントランスホール
 入館者：534人
 概 要：県条例で制定された「富士山の日」（2月23日）の関連イベントとし
 て実施しているミニ展示です。平成27年度の縄文時代、28年度の弥生
 時代、29年度の高縄時代に引き続き、平成30年度は富士山と奈良・平
 安時代の遺跡との関わりについて、近年富士山周辺地域で発掘された成果
 を中心に出土品を紹介しました。会期中には、富士山の発掘調査で出土し
 た銭で拓本をとるイベントも開催しました。
- ⑧ 『風土記の丘望見展』
 会 期：3月2日（土）～4月7日（日） 開催日数：33日
 会 場：風土記の丘研修センター・エントランスホール
 入館者：1,015人
 概 要：考古博物館の体験研修施設（附属施設）である風土記の丘研修センターで
 開催している企画展です。30年度は日本遺産認定を記念し、「D-1グ
 ランプリー21世紀の山梨縄文王決定戦」と題し、一般公募した手作り
 の土器や土偶を展示公開し、作品の人気投票を実施しました。
- ⑨ 『甲府城跡国史跡指定記念ミニ展示ー出土品が語る甲府城ー』
 会 期：3月2日（土）～4月7日（日） 開催日数：33日
 会 場：考古博物館エントランスホール

入館者：2, 014人

概要：甲府城跡の国史跡指定を記念して、甲府城の見どころや築城期の鯨瓦、飾り瓦を展示しました。

⑩ 『山梨の遺跡発掘展2019』

会期：3月9日（土）～4月7日（日）

開催日数：27日

会場：考古博物館多目的室

主催：山梨県埋蔵文化財センター

入館者：1, 623人

概要：埋蔵文化財センターによる年度ごとの発掘調査の速報展示です。

2 学習会・講座など

(1) 考古学講座

平成30年度は「倭国大乱期の甲府盆地」をテーマに開催しました。弥生時代後期の2世紀後半に起こった、中国の歴史書にも記述がみられる争乱について、最新の考古学成果をもとに山梨の弥生・古墳時代について解説していただきました。

- 第1回 8月4日（土） 「甲府盆地の周溝墓」
講師：考古博物館 一之瀬 敬一 受講者：33人
- 第2回 8月18日（土） 「土器から見る地域間交流とその諸相」
講師：大月市教育委員会 稲垣 自由 氏 受講者：36人
- 第3回 9月1日（土） 「青いガラスと甲府盆地」
講師：山梨県立博物館 西願 麻衣 氏 受講者：36人
- 第4回 9月22日（土） 「（総論）倭国大乱期の中部高地」
講師：東海大学文学部教授 北條 芳隆 氏 受講者：43人

(2) 館長講座

萩原三雄館長による「考古学研究の最前線」をテーマとする講演会。日本城郭史や日本鉾山史などを専門とする館長が、最新の考古学の研究成果をわかりやすく解説する講座です。平成30年度は「甲府城の考古学」をテーマに6回開催されました。

- 第1回 4月21日（土） 「甲府城と倭城と織豊城郭」
受講者：54人
- 第2回 6月9日（土） 「甲府城の築城者をめぐる謎」
受講者：67人
- 第3回 8月25日（土） 「天守台と櫓台
—甲府城・都留勝山城・躰躰ヶ崎館—」
受講者：84人
- 第4回 10月13日（土） 「高石垣と金箔瓦と天守、そして徳川家康包圍網」
受講者：59人
- 第5回 12月15日（土） 「甲府城の天守の謎に迫る」
受講者：71人
- 第6回 2月16日（土） 「戦国甲府城下町と近世甲府城下町」
受講者：68人

(3) 特別展記念講演会

特別展『古代アンデス文明展』の開催を記念して、講演いただきました。

6月10日(日)

「アンデスのミイラーその誕生から消滅まで」

講師：国立科学博物館副館長兼人類研究部長 篠田 謙一 氏

「インカ帝国はなぜ滅びたか」

講師：東京大学大学院総合文化研究科教授 網野 徹哉 氏

受講者：114人

(4) 縄文問答「なるほど！考古博」

平成28年度から開催のミニ講座です。30年度は秋季企画展の開催に合わせて、考古博物館のエントランスや展示室で講師が実際に出土品を見せながら解説し、縄文時代のさまざまな疑問に答えていただきました。

10月20日(日)「水煙文土器の世界」

講師：山梨県埋蔵文化財センター 今福 利恵 氏 受講者：71人

(5) 冬季企画展関連講座

「山梨市の出土品Ⅰ」の開催期間中、山梨市教育委員会職員に展示解説していただきました。

期 日：12月16日(日)

会 場：考古博物館多目的室

講 師：山梨市教育委員会 三澤 達也 氏

参加者：47人

(6) ものづくり教室～チャレンジ博物館～（風土記の丘研修センター）

小中学生親子を対象に、学校の休業日である日曜日を利用し、体験学習会を開催。考古学を学ぶ楽しさとももの作り出すよろこびを経験できる企画。

第1回 4月22日(日)「ゴージャス勾玉づくり・古代衣装着用体験」

参加者：38人

第2回 6月17日(日)「アンデスの染め物にチャレンジ」(特別展連携)

参加者：28人

第3回 7月 8日(日)・15日(日)

「アンデスの絵皿づくりにチャレンジ」

(特別展連携)

参加者：69人

第4回 8月 5日(日)「ミニミニ青銅鏡づくり～古代の輝き体験～」

参加者：27人

第5回 8月19日(日)「石膏で青銅鏡づくり～本物そっくり体験～」

参加者：30人

第6回 9月 2日(日)「縄文時代の石製耳飾りペンダントづくり

にチャレンジ」

参加者：33人

第7回 9月30日(日)・10月21日(日)

「石包丁づくりにチャレンジ、

収穫・古代衣装着用体験」

参加者：78人

第8回 11月18日(日) 「縄文ポシェットづくりにチャレンジ」

参加者：36人

第9回 12月 2日(日) 「干支の土鈴づくりにチャレンジ」

参加者：37人

第10回 1月13日(日)・20日(日)・2月3日(日)

「縄文土器づくりにチャレンジ」

参加者：74人

第11回 2月17日(日) 「弥生時代の土笛づくりにチャレンジ」

参加者：44人

第12回 3月17日(日) 「縄文土偶づくりにチャレンジ」

参加者：43人

(7) ものづくり教室～原始古代の技に学ぶ～(風土記の丘研修センター)

高校生以上の一般の方を対象に、原始古代のすぐれた工芸技術を体験学習する企画。

第1回 4月21日(土) 「けつ状耳飾りペンダント作り体験」

参加者：9人

第2回 6月 2日(土) 「陶器作り体験」

参加者：4人

第3回 6月10日(日) 「アンデスのコチニール染め体験」(特別展連携)

参加者：14人

第4回 7月 1日(日)・7日(土) 「アンデスの絵皿を作ろう」

(特別展連携)

参加者：17人

第5回 8月 4日(土) 「青銅器・銅剣形ペーパーナイフ作り体験」

参加者：8人

第6回 9月 9日(日) 「和鏡作り体験」

参加者：15人

第7回 10月20日(土) 「石膏で大型青銅鏡作り体験」

参加者：9人

第8回 10月28日(日) 「土器ドキクッキー作り体験」

参加者：16人

第9回 11月 4日(日) 「陶器作り体験」

参加者：14人

第10回 12月9日(日)・16日(日) 「トンボ玉作り体験」

参加者：15人

第11回 1月12日(土)・19日(土)・2月3日(日) 「縄文土器作り体験」

参加者：

第12回 2月 9日(土)・10日(日) 「青銅鏡形チョコレート作り体験」

参加者：59人

第13回 3月 2日(土) 「ガラス製勾玉ペンダント作り体験」

参加者：8人

第14回 3月10日(日) 「土偶・古墳形クッキー作り体験」

参加者：17人

(8) 史跡文化財セミナー

一般の方を対象として、山梨県内の史跡文化財を巡り、郷土の歴史や文化に対する興味・関心、理解を深めました。

- 第73回 9月9日(日) 「国史跡・梅之木遺跡と周辺を歩く」
参加者：29人
- 第74回 11月4日(日) 「七里岩を訪ねる」
参加者：29人
- 第75回 3月10日(日) 「甲府城下町を歩く」
参加者：34人

3 イベント

(1) 第30回風土記の丘こどもまつり(公園管理者と共催)

5月3日(木・祝)・4日(金・祝) 風土記の丘研修センターと周辺エリア

参加者：4,027人

火起こし体験、古代食試食、狩猟体験や史跡ウォークラリーなど考古学や風土記の丘に親しんでもらうため、毎年5月の連休期間中に開催しました。

(2) 考古博エントランスホールでのイベント

- ① 5月26日(土)・7月8日(日) 『アルパカ記念撮影会』(特別展連携)
参加者：1,057人
- ② 11月20日(火) 『県民の日イベント』
参加者：1,199人
- ③ 1月3日(木) 『お正月イベント』
参加者：142人
- ④ 2月23日(土) 『富士山の日関連イベント』
参加者：9人
- ⑤ 3月3日(日) 『考古博物館 de 春まつり』
参加者：440人

(3) 風土記の丘研修センターでのイベント

- ① 6月16日(土)～8月19日(日) 『風土記の丘で七夕飾り』
(公園管理者と共催)
参加者：172人
- ② 6月17日(日) 『古代米を植えよう』(公園管理者と共催)
参加者：10人
- ③ 6月23日(日) 『七夕人形作り』
参加者：27人
- ④ 9月8日(土) 『方形周溝墓で星を見る会』(公園管理者と共催)
参加者：78人
- ⑤ 10月14日(日) 『秋のふれあいまつり』(公園管理者と共催)
参加者：749人
- ⑥ 11月23日(金・祝) 『落ち葉で焼きいも』(公園管理者と共催)
参加者：354人

⑦ 1月14日(月・祝)『古代米でもちつき』(公園管理者と共催)
参加者: 500人

(4) 夏休みスタンプラリー

7月24日(火)～8月26日(日) 入館者: 650人
スタンプブックを持った入館者で希望者がアクセサリ作り体験などをする夏休みの企画です。

- ① 『とんぼ玉をつくろう!』 参加者: 18人
- ② 『勾玉・大珠をつくろう!』 参加者: 98人
- ③ 『プラバン de 瓦バッジをつくろう!』 参加者: 135人
- ④ 『ミニミニ青銅鏡をつくろう!』 参加者: 25人
- ⑤ 『なぞとき考古博～夏休みスペシャル～』 参加者: 282人
- ⑥ 『ミニミニ☆発掘パズル』 参加者: 49人
- ⑦ 『古銭を作ろう』 参加者: 43人

(5) 「夏休み自由研究プロジェクト」への参加

県立博物館の呼びかけによる事業への参加。

7月16日(月・祝) アイメッセ山梨(甲府市) 参加者: 48人

(6) 第16回わたしたちの研究室表彰式・研究発表会

2月9日(土) 考古博物館エントランスホール 参加者: 120人

(7) 縄文王国山梨

「Jomon FES 2018～山梨縄文まつり～」

日時: 11月10日(土) 11:00～17:00

会場: 甲府駅北口よっちゃばれ広場

内容: 山梨の優れた縄文文化を広く発信すべく開催したイベント。狩猟体験、火起こしなどの体験メニューのほか、縄文芸術の高さと見どころを語るトークショーや古代音楽を再現したライブステージなどを行いました。

参加者: 約3,505人

(8) 原始・古代の技術体験学習(風土記の丘研修センター)

- ① 火起こし体験 参加者: 4,598人
- ② 勾玉作り 参加者: 2,443人
- ④ トンボ玉作り 参加者: 52人
- ⑤ 青銅鏡作り 参加者: 23人
- ⑥ その他(土鈴・トチの実笛作りほか) 参加者: 213人

4 学芸員実習・職場体験・インターンシップ

高校・大学生等の就職先選定に先立つ職場実習であるインターンシップ、主に中学生による職場体験（12校・26名）、大学生の学芸員資格取得のための学芸員実習は2名を受け入れました。

学芸員実習	8月1日～11日	山梨大学	1人
		東京女子大学	1人

5 古代衣装貸し出し

弥生～古墳時代の貫頭衣、古墳時代の豪族の衣服である胡服や巫女の服、古墳～奈良時代の女官や官吏の服を貸し出し、学校教育やイベントに活用しました。

5月12日（土）～5月24日（木）	やまびこ支援学校
6月16日（土）～6月30日（土）	あけぼの支援学校
6月27日（水）～7月6日（金）	わかば支援学校
10月5日（金）～10月19日（金）	海老名市教育委員会

合計：4件

6 ボランティアガイドの実施

考古博物館協力員に研修を受けていただき、ボランティアガイドとして来館者の展示解説を実施。総勢15名で活動しました。

4月	6日間（延べ11名；開館日数26日）
5月	9日間（延べ12名；開館日数26日）
6月	なし（特別展期間のため）
7月	6日間（延べ8名；開館日数22日）
8月	13日間（延べ18人；開館日数28日）
9月	5日間（延べ6人；開館日数26日）
10月	7日間（延べ18人；開館日数26日）
11月	2日間（延べ5人；開館日数日）
12月以降	無し

◇ 平成31年度（令和元年度）考古博物館経過・予定事業について

1 展示活動

(1) 第37回特別展『縄文文化の頂点』

会 期：10月2日（水）～11月24日（日） 開催日数47日

会 場：山梨県立考古博物館

概 要：縄文時代に最も人口が多かったと推定される中期の中部高地を中心に、その成立から解体までの変遷について解説しながら、縄文文化の到達点と言える資料を紹介します。また、中期文化の解体後、石を用いた新たな祭祀による縄文後期の文化も取り上げます。

当館所蔵資料を含む日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の認定、東京国立博物館での「縄文ー1万年の美の鼓動ー」やパリにおけるジャポニスム2018「縄文」展など、日本の縄文文化が注目を集めている中で、縄文文化の頂点の一つである山梨の資料を県外の出土品と比較しながら紹介することにより、その価値をさらに広めることを目的とします。

(2) 企画展

① 春季企画展『人口拡大の時代ー郷村・荘園の成立と展開』

会 期：4月20日（土）～6月16日（日） 開催日数49日

会 場：考古博物館多目的室

入館者：5,750人

概 要：律令国家から王朝国家へと社会の仕組みが大きく変化した平安時代の中頃以降、貴族や寺院の荘園が成立し、遺跡の数も急激に増加し、中世前半にかけては有力者による郷村が成立しました。この間の社会の変化について、さまざまな考古資料からその背景や実態を紹介しました。

② 夏季企画展『山梨にでっかい古墳ができたわけー上の平遺跡発掘40周年ー』

会 期：7月13日（土）～8月25日（日） 開催日数39日

会 場：考古博物館多目的室

概 要：東日本随一の密集度を誇る上の平方形周溝墓群の在り方や特質を明らかにし、古墳時代前期の大型前方後円墳が出現する背景について、改めて考える機会として開催します。夏休み期間中の開催であることから、会期中は小・中学生を対象にスタンプラリーイベントを開催し、ワークショップなどを予定しています。

③ 冬季企画展「山梨市の出土品Ⅱ」

会 期：12月7日（土）～令和2年1月26日（日） 開催日数38日

会 場：考古博物館多目的室

概 要：自治体に専門の施設を持たない地域の出土品を紹介する冬の企画展です。30年度年度に引き続き、山梨市の平安時代から近世の遺跡を紹介します。

④ 新年干支展『子（ネズミ）』

会 期：令和2年1月2日（木）～1月26日（日） 開催日数19日

会 場：考古博物館エントランスホール

- ⑤ 『第17回わたしたちの研究室・研究成果展示会』
 会 期：2月8日(土)～3月8日(日) 開催日数26日
 会 場：考古博物館多目的室
- ⑥ 『富士山ミニ展示』
 会 期：2月9日(土)～2月29日(土) 開催日数18日
 会 場：考古博物館エントランスホール
- ⑦ 『風土記の丘望見展』
 会 期：2月29日(土)～4月5日(日) 開催日数32日
 会 場：風土記の丘研修センター・エントランスホール
- ⑧ 『山梨の遺跡発掘展2019』
 会 期：3月14日(土)～4月12日(日) 開催日数25日
 会 場：考古博物館多目的室
 主 催：山梨県埋蔵文化財センター

2 学習会・講座など

(1) 考古学講座

今年度は「日本遺産『星降る中部高地の縄文世界』の魅力を語る」をテーマに開催しています。黒曜石を中心としたさまざまな交易や芸術性の高い土器や土偶など、中部高地で花開いた縄文文化について、その魅力を語ります。

- 第1回 6月22日(土) 「黒曜石のネットワーク」
 講師：山梨学院大学 保坂 康夫 受講者：104人
- 第2回 7月 6日(土) 「物語を描いた土器と花開く縄文芸術」
 講師：韮崎市教育委員会 渋谷 賢太郎 氏 受講者：83人
- 第3回 7月20日(土) 「繁栄を祈った土偶たち」
 講師：釈迦堂遺跡博物館 一瀬 一浩 氏
- 第4回 8月 3日(土) 「(総論)星降る中部高地の縄文世界」
 講師：北杜市教育委員会 佐野 隆 氏

(2) 特別展記念講演会

第37回特別展『縄文文化の頂点』の開催を記念して、講演いただきます。

- 第1回 10月20日(日) 「DNAから探る縄文人の起源」(仮題)
 講師：国立科学博物館 篠田 謙一 氏
- 第2回 11月10日(日) 「物語が込められた中部高地の土器」(仮題)
 講師：山梨県埋蔵文化財センター 今福 利恵 氏
- 第3回 11月17日(日) 「縄文文化の繁栄と衰退」(仮題)
 講師：山梨県立考古博物館 高橋 龍三郎 氏

(3) ものづくり教室～チャレンジ博物館～（風土記の丘研修センター）

小中学生親子を対象に、学校の休業日である日曜日を利用し、体験学習会を開催。考古学を学ぶ楽しさとももの作り出すよろこびを経験できる企画。

- 第1回 4月21日（日）「勾玉づくり・古代衣装着用体験」
参加者：40人
- 第2回 6月16日（日）「石膏で青銅鏡づくり・黒米お田植え体験」
参加者：37人
- 第3回 7月 7日（日）「古銭づくりにチャレンジ」
参加者：30人
- 第4回 8月 4日（日）「縄文ポシエットづくりにチャレンジ」
（特別展連携）
- 第5回 8月18日（日）「石製耳飾りづくりにチャレンジ」（特別展連携）
- 第6回 9月 1日（日）「弥生時代の矢じりづくりにチャレンジ」
- 第7回 9月29日（日）・10月20日（日）
「石包丁づくりにチャレンジ、
収穫・古代衣装着用体験」
- 第8回 11月17日（日）「土偶づくりにチャレンジ」（特別展連携）
- 第9回 12月 1日（日）「干支の土鈴づくりにチャレンジ」
- 第10回 1月19日（日）・2月2日（日）
「縄文土器づくりにチャレンジ」
- 第11回 2月16日（日）「青銅鏡づくりにチャレンジ」
- 第12回 3月15日（日）「ミニミニ銅鐸づくりにチャレンジ」

(4) ものづくり教室 ～原始古代の技に学ぶ～（風土記の丘研修センター）

高校生以上の一般の方を対象に、原始古代のすぐれた工芸技術を体験学習する企画。

- 第1回 4月20日（土） 「トンボ玉ストラップ作り体験」
参加者：10人
- 第2回 5月18日（土） 「縄文風網代編みバッグ作りとアンギン編体験」
（特別展連携）
参加者：12人
- 第3回 6月 1日（土） 「縄文風陶器作り体験」（特別展連携）
参加者： 9人
- 第4回 7月20日（土） 「ミニミニ銅鐸作り体験」
- 第5回 8月24日（土） 「琥珀で勾玉作り体験」
- 第6回 9月 7日（土） 「小銅鐸作り体験」

- 第7回 10月 5日(土) 「縄文風陶器作り体験」(特別展連携)
- 第8回 10月27日(日) 「土器ドキクッキー作り体験」(特別展連携)
- 第9回 12月14日(土) 「染め物体験」
- 第10回 1月11日(土)・18日(土)・2月2日(日) 「縄文土器作り体験」
- 第11回 2月 8日(土)・9日(日) 「青銅鏡形チョコレート作り体験」
- 第12回 3月 7日(土) 「青銅器・剣形ペーパーナイフ作り体験」

(5) 史跡文化財セミナー

一般の方を対象として、山梨県内の史跡を巡り、郷土の歴史や文化に対する興味・関心、理解を深めます。

- 第76回 5月18日(土) 「大月の甲州街道を歩く」

参加者：24人

- 第77回 11月2日(土) 「甲斐風土記の丘と米倉山をめぐる」

- 第78回 3月15日(日) 「山梨市の原始・古代をたどる」

3 イベント

(1) 第30回風土記の丘こどもまつり(公園管理者と共催)

5月3日(金・祝)・4日(土・祝) 風土記の丘研修センターと周辺エリア

参加者：6,473人

火起こし体験、古代食試食、狩猟体験や史跡ウォークラリーなど考古学や風土記の丘に親しんでもらうため、毎年5月の連休期間中に開催しています。

(2) 考古博物館エントランスホールでのミニイベント

- ① 6月22日(土) 『食育推進全国大会関連イベント』
- ② 11月20日(水) 『県民の日イベント』
- ③ 1月 3日(金) 『お正月イベント』
- ④ 2月23日(日) 『富士山の日関連イベント』
- ⑤ 3月 8日(日) 『考古博物館 de 春まつり』

(3) 風土記の丘研修センターでのイベント

- ① 6月8日(土)～8月12日(月・祝) 『風土記の丘で七夕飾り』
(公園管理者と共催)
- ② 6月30日(日) 『七夕人形作り』
- ③ 未定 『方形周溝墓で星を見る会』(公園管理者と共催)
- ④ 10月14日(月・祝) 『秋のふれあいまつり』(公園管理者と共催)
- ⑤ 11月23日(土・祝) 『落ち葉で焼きいも』(公園管理者と共催)
- ⑥ 1月13日(月・祝) 『古代米でもちつき』(公園管理者と共催)

(4) 夏休みスタンプラリー

7月20日(土)～8月25日(日)

スタンプブックを持った入館者で希望者がアクセサリ作り体験などをする夏休みの企画です。

- ① 『とんぼ玉をつくろう!』
- ② 『勾玉・大珠をつくろう!』
- ③ 『プラバン de 古墳のお宝!』
- ④ 『ミニミニ青銅鏡をつくろう!』
- ⑤ 『名探偵コフンのなぞ解き考古博』
- ⑥ 『ミニミニ☆発掘体験!』
- ⑦ 『古銭をつくろう!』

(5) 「夏休み自由研究プロジェクト」への参加

県立博物館の呼びかけによる事業への参加。

7月15日(月・祝) アイメッセ山梨(甲府市)

(6) 第17回わたしたちの研究室表彰式・発表会

2月8日(土) 考古博物館エントランスホール

(7) 縄文王国山梨

「Jomon FES 2019～山梨縄文まつり～」

日時: 10月27日(日) 11:00～17:00

会場: 甲府駅北口よっちゃばれ広場

(8) 原始・古代の技術体験学習(風土記の丘研修センター事業)

(5月末現在)

① 火起こし体験

参加者: 2, 338人

② 勾玉作り

参加者: 1, 492人

4 学芸員実習・職場体験・インターンシップ

高校・大学生等の就職先選定に先立つ職場実習であるインターンシップ、主に中学生による職場体験を受け入れ予定。大学生の学芸員資格取得のための学芸員実習は2名を受け入れ、8月1日～8月11日に実施予定。

学芸員実習	8月1日～11日	東海大学	1人
		筑波大学	1人

5 古代衣装貸し出し

弥生～古墳時代の貫頭衣、古墳時代の豪族の衣服である胡服や巫女の服、古墳～奈良時代の女官や官吏の服を貸し出し、学校教育やイベントでの活用を進めています。

4月 4日(木)～4月19日(金)	富士河口湖町立船津小学校
4月24日(水)～5月 8日(水)	埼玉県生活科学センター
5月21日(火)～6月19日(水)	北杜市立長坂小学校

6月 4日 (火) ～6月14日 (金)	早川町立早川南小学校
6月 4日 (火) ～6月18日 (火)	県立富士見支援学校
6月16日 (日) ～7月 9日 (火)	あけぼの支援学校
6月19日 (水) ～6月24日 (月)	県立城西高等学校

合計：7件

6 ボランティアガイドの実施

考古博物館協力員に研修を受けていただき、ボランティアガイドとして来館者の展示解説を実施。総勢16名で活動中。

4月	3日間 (延べ 6名 ; 開館日数26日)	
5月	12日間 (延べ16名 ; 開館日数27日)	
6月	7日間 (延べ 9名 ; 開館日数24日)	(6月末現在)

◇ 考古博物館利用状況について

次の4項目については、次ページ以降をご覧ください。

- (1) 総入館者数
- (2) 特別展入館者数
- (3) 学校関係利用状況
- (4) 考古博物館総利用者数

特別展観覧者数

令和元年6月末現在 (単位:人)

年度	開館日数		個人		団体		割引制度(チケット券・宿泊券)		前売券	旅行社クーポン	年間バスポート	高齢者身障者	土曜日(小・中・高)	教育課程	招待者	計	1日平均	内容	
	大学・一般	小・中・高	大学・一般	小・中・高	大学	小・中・高	大学	小・中・高											
58	46	2,807	723	1,405	215									1,800	1,445	8,395	183	土偶	
59	35	1,840	308	926	26									1,194	945	5,239	150	縄文時代の酒造具	
60	37	1,362	161	832	36									785	839	4,015	109	山梨の中世陶磁	
61	56	3,232	520	1,065	8									2,585	2,604	10,014	179	古代甲斐国と織内王権	
62	29	1,461	274	317	28									571	866	3,517	121	古代官道と甲斐の文化	
63	28	1,924	242	359	24									1,008	1,566	5,123	183	古代の装身具	
1	31	1,098	264	616	316									2,522	809	5,625	181	一粒の剝展	
2	36	1,503	242	448	81									3,549	774	6,597	183	古墳時代が聞こえる	
3	36	1,100	199	350	3									3,318	819	5,789	161	縄文土器その心象世界	
4	36	2,263	344	414	115									1,903	1,135	6,174	172	天下人の時代	
5	35	840	101	231										2,446	973	4,591	131	山梨の経塚	
6	36	2,414	534	96										1,947	1,295	6,286	175	古墳時代の甲冑	
7	44	55,623	9,554	1,943	576									4,273	4,303	90,082	2,047	黄金の箱シカンの発掘展	
8	32	7,999	1,432	259	219							10,045	3,765	2,140	420	14,059	439	ネアンデルタール人の復活展	
9	19	1,268	178	92								583	125		2,178	4,424	233	新発見考古学展	
10	44	5,173	883	151	458							587	62	737	1,770	5,195	157	韓国・忠清北道の古代文化展	
11	39	1,985	394	166	457							1,711	208	1,948	2,633	13,165	299	遙かなるエジプト展	
12	39	2,842	383	179	173							611	87	1,634	1,478	6,812	175	縄文の旅	
13	44	1,555	309	205	205							1,548	94	1,126	2,882	9,227	237	中国四川省古代文物展	
14	38	1,884	449	274	89							721	92	1,913	1,035	6,035	137	黄金の輝き	
15	38	1,965	133	126								737	142	1,423	1,375	6,373	168	技と美の誕生	
16	46	1,052	116	285	14							1,257	145	2,227	2,274	8,127	214	大トルコ展	
17	58	942	167	206	234							615	81	1,745	1,156	5,064	110	縄文の女神展	
18	51	993	191	115	42							828	109	1,805	863	5,154	89	山の民と海の民	
19	52	12,958	2,908	498	355					18	20	802	83	1,546	812	4,613	90	甲府盆地から見たヤマト	
20	55	647	428	164	592						506	9,468	2,507	2,035	729	51,241	985	世界遺産ナスカ展	
21	51	605	420	39	351						126	874	90	1,628	905	6,549	119	埋められた財宝	
22	51	453	236	40	390					14	116	667	68	748	1,128	5,068	99	卓弥呼時代の黄泉世界	
23	50	810	338	92	1,124						112	652	44	961	751	4,329	85	発掘された女性の系譜	
24	50	12,437	4,782	193	999						605	18,095	1,309	1,474	2,404	6,773	135	縄文土器名宝展	
25	55	563	1,504	104	674						85	708	82	973	1,103	64,865	1,297	インカ帝国展	
26	44	672	1,172	23	363						90	586		886	1,225	6,545	119	食いしんぼうの縄文人	
27	45	927	1,039	83	956						102	805		923	1,110	5,017	114	掘り起こされた音の形	
28	50	1,063	1,542		478						81	984		943	973	5,945	132	縄文の美	
29	46	929	1,182		699					23	76	1,032		949	1,177	6,067	132	よみがえる武士の魂	
30	51	4,948	4,666	35							319	8,507		899	1,718	25,981	509	ひつぎのヒミツ	
31	47																		古代アメンデス文明展
																			縄文文化の頂点

学校関係利用状況

令和元年6月末日現在 (単位：校、人)

年度	県内										県外										合計	
	小学校		中学校		高校		計		小学校		中学校		高校		計							
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数				
9	53	3,437	10	474	5	214	68	4,125	67	4,524	12	1,118	1	56	80	5,698	148	9,823				
10	61	3,723	9	397	1	46	71	4,166	46	3,213	12	1,316	4	855	62	5,384	133	9,550				
11	60	3,723	11	577	4	109	75	4,409	45	3,109	9	907	1	120	55	4,136	130	8,545				
12	57	2,987	15	659	9	273	81	3,919	38	2,387	5	465			43	2,852	124	6,771				
13	58	3,059	19	285	3	339	80	3,683	26	1,681	7	540			33	2,221	113	5,904				
14	52	2,781	15	457	5	159	72	3,397	33	1,934	7	628			40	2,562	112	5,959				
15	68	3,143	8	234	3	88	79	3,465	31	1,678	8	635	1	81	40	2,394	119	5,859				
16	56	2,980	13	323	4	216	73	3,519	25	1,551	2	140	1	29	28	1,720	101	5,239				
17	51	2,797	15	275	1	21	67	3,093	32	2,325	5	345	2	69	39	2,739	106	5,832				
18	54	2,976	9	162	1	7	64	3,145	37	2,818	10	595			47	3,413	111	6,558				
19	80	3,704	22	937	6	106	108	4,747	44	3,149	5	474			49	3,623	157	8,370				
20	66	3,341	12	402	1	176	79	3,919	46	3,335	12	898			58	4,233	137	8,152				
21	65	2,950	16	539	5	64	86	3,553	42	2,947	11	919	1	45	54	3,911	140	7,464				
22	58	3,075	12	568	6	155	76	3,798	48	3,270	12	1,073			60	4,343	136	8,141				
23	63	3,315	13	467	6	226	82	4,008	64	4,694	8	922			72	5,616	154	9,624				
24	60	2,985	12	532	6	182	78	3,699	58	4,029	12	1,008	1	72	71	5,109	149	8,808				
25	57	2,705	19	545	1	36	77	3,286	56	3,579	11	901			67	4,480	144	7,766				
26	65	2,989	17	747	4	194	86	3,930	53	3,654	9	840			62	4,494	148	8,424				
27	62	3,026	14	361	5	266	81	3,653	58	4,231	11	804	1	29	70	5,064	151	8,717				
28	63	2,841	16	767	2	96	81	3,704	48	3,089	12	815	1	5	61	3,909	142	7,613				
29	64	2,574	14	457	2	96	80	3,127	48	3,297	8	697			56	3,994	136	7,121				
30	61	2,425	12	469	4	238	77	3,132	51	3,606	5	262			56	3,868	133	7,000				
31	29	1,122	19	362	1	37	49	1,521	27	1,951	4	276			31	2,227	80	3,748				
計	1,789	97,884	375	14,803	101	4,423	2,265	117,110	1,342	95,256	260	22,645	51	3,486	1,653	121,387	3,918	238,497				

(参考) 平成29年6月末現在

29	27	1,031	13	412	1	83	41	1,526	37	2,573	5	424			42	2,997	83	4,523
----	----	-------	----	-----	---	----	----	-------	----	-------	---	-----	--	--	----	-------	----	-------

考古博物館 総利用者数

令和元年6月末日現在 (単位:人)

項 目	28年度	29年度	30年度	31年度	増減		事業内容
					対H29 6月末比	H27~29平均 6月末比	
常設展 観覧者数	22,371	24,223	39,047	7,518	△ 12.8%	△ 9.3%	【外国人来館者数(内数)】 H30(7~3月):94、H31:72
特別展 観覧者数	6,044	6,067	25,981		—	—	H28:9.28~11.23 H29:10.4~11.23 H30:5.19~7.16 R1:10.2~11.24
企画展 観覧者数	13,047	15,464	19,414	5,750	△ 10.9%	△ 9.1%	春季・夏季・冬季企画展、わたしたちの研究室、 富士山の日ミニ展示、山梨の遺跡展等
主催事業 参加者数	23,591	18,386	19,397	6,151	△ 17.1%	△ 9.4%	
講座等	572	1,061	828	128			史跡文化財セミナー、考古学講座、館長講座、縄文問答等
ものづくり教室	572	798	810	109			原始古代の技に学ぶ、チャレンジ博物館
体験学習	8,403	8,742	7,432	3,934			勾玉づくり、火起こし、その他(土鈴、編布、青銅鏡等)
イベント等	12,557	6,690	9,179	38			夏休み自由研究プロジェクト(アイメッセ)、夏休みスタンプラリー、縄文王国関連イベント、県民の日イベント、古代のもちつき、わたしたちの研究室発表会、考古博物館 春まつり等
風土記の丘こどもまつり	1,487	1,095	1,148	1,942			(GW期間中2日間開催)
研修センター 利用者数	2,210	1,763	2,015	369	※ 15.2%	※ 11.9%	
風土記の丘望見展観覧者数	737	659	1,015				講堂、研修室
施設利用	1,473	1,104	1,000	369			【別掲】テニスコート利用者数 H28:2,967、H29:2,455、H30:2,934、H31:868
総利用者数	67,263	65,903	105,854	19,788	※ 12.4%	※ 8.2%	

※別掲としたテニスコート利用者数を含む増減

■委員提言に対する対応・検討状況について

No.	委員提言概要(H30.11.13)	事務局回答(H30.11.13)/対応・検討状況
1	館長講座(動画)をホームページなどに掲載して、誰でも見られるようにしてほしい。	会場で直接、講師の話を聴くことができるのは、受講者の特権であり、館の実績にもつながると考えている。未公開の資料であったり、内容によっては著作権等の問題もあるため、ホームページ等への掲載は困難である。
2	今年度の県民の日イベント「JOMONまつり」のチラシについて、「狩猟体験」の、弓矢で鹿を狙う人と泣きながら逃げる鹿、という表現は縄文時代らしくない。命の尊さをどう表現していくか、十分考えてほしい。	親しみやすさを考え、デフォルメしたものを掲載している。子ども達が縄文人の生活について考えられるような工夫をしていきたい。
3	縄文をアートとして見る、という流れがある。縄文展を考古博物館と美術館で同時に行い、美術と考古学の両側面から評価することを検討してみては。	縄文土器の美の側面と、考古学的な側面を兼ね合わせながら展示することは有意義と考えている。どちらかの面に偏りがちだが、縄文時代の生活が捉えられるよう、展示の工夫をしていく。
4	文学館主催の文学賞のような、縄文ストーリー賞があっても良いのでは。興味を持って考えている人は沢山いるため、広くアイデアを募集してほしい。	縄文王国山梨実行委員会や日本遺産の各事業の中で、縄文文化を発信していく。
5	「レキシ」というミュージシャンが縄文土器を取り上げた曲などを発表している。音楽を取り入れると、新たな層の目を引くことができるため、縄文王国山梨で開催している縄文フェスなどに「レキシ」を呼んではどうか。	縄文をテーマにしたミュージシャン、アーティストは近年多く、縄文フェスでは、毎年予算の範囲で検討して出演を依頼している。
6	ジビエが流行しているため、イベントに鹿を食べる体験を取り入れてみては。	イベントでの食品の取り扱いについては、事前に保健所に届け出を行い、指導のもとで実施している。今後も衛生上安全な範囲で対応していく。
7	山梨には多くのデザイナーがいるので、協同してミュージアムショップにグッズを売り出してはどうか。	ミュージアムショップは、考古博物館協力が運営しており、理事会等で相談しながら検討する。
8	東京国立博物館の縄文展では写真撮影が禁止だったが、考古博物館では写真撮影が可能と聞いている。利用者の拡大を図るため、是非PRしてもらいたい。	来館者には、撮影後の適切な使用をお願いした上で、常設展は撮影可としている。今後も可能な範囲で利用促進をPRしていく。
9	夏休みスタンプラリーで、小学生に土器の絵を描いてもらってはどうか。縄文に興味を持つきっかけが大事だと考える。美術が好きな子どもや縄文好きな子どもが絵を通じて興味を持てるのではないか。	平成27年度に縄文土器のデッサンコンテストを実施した。現在もスケッチしている来館者は時々見かけることがあり、機会をみて実施を考えたい。
10	ものづくりの企画が単発である。本来ものづくりは1日ではできない。年間の流れを意識した集大成の企画と、その発表の機会を設けてはどうか。	月替わりでさまざまなものづくりが体験できるようメニューを組んでいるが、土器作りは3日間の工程で実施している。昨年度は参加者が制作した縄文土器や土偶を展示、表彰し、新聞でも取り上げられた。
11	外国人利用者数のデータはあるのか。	見た目の判断となるが、H30.7月以降、外国人利用者数の調査を開始。今後、協議会で報告を行う。

■委員提言に対する対応・検討状況について

No.	委員提言概要 (H30.11.13)	事務局回答 (H30.11.13)/対応・検討状況
12	外国人観光客の来館に備え、新宿駅や甲府駅からのバスによるアクセス等を英語でホームページに掲載してはどうか。	県HPでは「自動翻訳サービス」により、英語など7ヶ国語の翻訳に対応している。
13	友好姉妹都市である四川省には、三星堆という独特な形の仮面などが出土している古代中国の遺跡群がある。姉妹都市の繋がり日本で持つてくることができれば、インパクトがあり、考古博物館が注目されるのではないか。	平成12年度には、友好県省締結15周年記念の特別展を開催している。海外の考古資料を紹介する展示は、これまで何度か開催している。
14	市川三郷町は静岡県の西伊豆町と姉妹都市を結んでいるが、伊豆には縄文の遺跡はあまりないと記憶している。市川三郷町の教育委員会に働きかけ、西伊豆町の小学生の来館につなげられたら、新たな観覧者が開拓できるのでは。	静岡県の市町村では、これまで富士宮市教育委員会を訪問し、利用促進をPRし、来館につなげてきた。西伊豆町については、市川三郷町教育委員会を通じて働きかけをしていきたい。
15	考古博物館、曾根丘陵公園は子どもたちが利用しやすい場所。時間の都合で断念したが、当校でもクリーンセンターと県庁防災新館の中継地として、昼食時間の利用を計画していた。このような利用ができることを学校関係者に紹介してはどうか。	県内へは毎年、市町村教育委員会や教育事務所を通じ利用案内やDVDの配布を行っている。また、7月と11月には総合教育センターと共催で教員研修会を行っており、考古博物館のPR等を行っている。
16	考古博物館で県障害福祉課と連携し、依頼に応じて手話通訳やサポーターを付けてもらえると、より多くの方に利用してもらえるのでは。	県立聴覚障害者情報センターで手話通訳者の派遣・斡旋を実施。利用者の希望等に応じて、必要な支援を行う。
17	昨今、博物館観覧の目的は多様化しており、教育や研究のほか、SNS等を通じた発信者として来館する方もいる。自撮りコンテストなど、宣伝したくなるような展示、レイアウトを取り入れることで、入館者数を増やす取り組みがあっても良いのでは。	昨年、東京国立博物館で開催された「縄文」展の最後のコーナーは、土器といっしょに写真が撮れるようになっており、参考としたい。
18	数年後の「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録を見据え、今から東北の博物館と文化財を借りる交渉を始めておく方が良いのでは。	今年度秋の特別展では、秋田県から資料を借用して展示する予定。他県の博物館とは、お互いに収蔵品を貸借する中でネットワークを構築している。現在交渉を行っているものもあり、引き続き話をしていく。
19	観光業界では、ブロガーを観光地に呼び、発信してもらう、という宣伝方法が使われている。考古博物館でも、ブログ、インスタグラム世代にモニターになってもらい、意見を聞くことを考えてみては。	昨年度、日本遺産の事業として、構成文化財を周遊観光に活用するため、「縄文トレイルモニターツアー」を企画・実施し、概ね好評であった反面、「単なる博物館めぐりにならないように」などの意見をいただいた。今年度は、これらの意見を踏まえ、旅行者に活用してもらえるような周遊ルートを作成する。
20	現場に足を運ばないと体感できない巨大なものは、人を引きつける。考古博物館には、関東地方には数が多くない巨大な古墳がある。これを上手く活用できたら良いのでは。	展示と古墳がいっしょに見学できるのは、考古博物館の大きな特徴であり、魅力となっている。これまでも県内外の学校関係者や旅行会社等に広報しており、今後も引き続きPRしていく。
21	授業で勉強したものの実物が考古博物館で見られることが、もっと子どもや親に伝わると良い。広報等を工夫してほしい。	学校に対しては、その年度に来館していない学校を重点的に回ったり、総合教育センターの研修会を通じて利用をPRしているが、保護者に対しては、さらにホームページやSNSを中心に広報していく。

■委員提言に対する対応・検討状況について

No.	委員提言概要(H30.11.13)	事務局回答(H30.11.13)/対応・検討状況
22	<p>地域で土器作り教室などを開催しているが、参加者で考古博物館を観覧したことがある人が少なかった。イベント参加者に対して、考古博物館を広報すべきでは。</p>	<p>イベント参加者は、当日無料で展示を観覧できる旨案内しているほか、チラシの配布やホームページ、SNSを通じて広報しており、今後とも継続していく。</p>
23	<p>博物館の共通のマークがある。外国人観光客が増えている中、表に出しておくわかりやすい。考古博物館へ立ち寄ってもらえるのでは。</p>	<p>博物館の地図記号では、通行者等に対し、具体的な展示品等を認識してもらうことが難しいため、前庭や駐車場入口等に考古関連のイラスト(土偶・埴輪など)を用いたフラッグ又は看板の設置を行い、考古博物館をPRをしているところ。</p>
24	<p>子どもは歌や踊りにするとよく覚える。縄文の歌もあると良い。外国人の方にも興味を持ってもらえるのでは。</p>	<p>毎年5月に開催している「風土記の丘こどもまつり」では、「縄文土器太鼓」によるステージでの演奏を行っている。ステージの後半では、子どもたちも参加し、いっしょに演奏するなど、ふれあう機会となっている。</p>
25	<p>考古博物館で「縄文茶会」を行ったと聞いた。お茶をしている人たちは注目しており、繰り返し開催することを望む。</p>	<p>講師から竪穴住居の中で茶会を開催したい旨の申し出があったため話を聞き、初めての試みだったため少人数で実施した。申し出があれば今後も続けていきたい。</p>
26	<p>通訳案内士として、外国人ブロッガー、YouTubeバーに甲府市内を案内した。このような事業を行う場合、山梨県観光推進機構と連携すると良いのでは。</p>	<p>日本遺産の事業を中心に、観光部局と連携しながら、様々な事業を検討していきたい。</p>

山梨県考古博物館協議会委員名簿

(任期 平成三十年十月二十三日～平成三十二年十月二十二日)

区分	役職等	氏名	出身分野 (勤務先等)
委嘱	(株)富士レークホテル取締役	井出薫子	社会教育関係
委嘱	山梨県旅館ホテル生活衛生同業組合顧問	笹本森雄	社会教育関係
委嘱	(株)タンザワ代表取締役会長	丹沢良治	社会教育関係
委嘱	NHK甲府放送局局長	辻村和人	社会教育関係
委嘱	甲府市男女共同参画 推進委員会委員	中村京子	社会教育関係
委嘱	山梨県市町村教育委員会 連合会副会長	保坂一仁	社会教育関係 (甲州市教育委員会教育長)
委嘱	山梨県PTA協議会副会長	中島智子	家庭教育関係
委嘱	山梨郷土研究会常任理事	石川 博	学識経験者 (駿台甲府高等学校教諭)
委嘱	山梨県考古学協会会長	末木 健	学識経験者
委嘱	山梨県立考古博物館協力会会長	長澤宏昌	学識経験者
委嘱	国立大学法人東京大学准教授	堀内秀樹	学識経験者
委嘱	公立大学法人山梨県立大学職員	一宮英生	公募
委嘱	俳優	渡邊富孝	公募
任命	山梨県公立小中学校長会	桐原ひかる	学校教育関係 (笛吹市立石和東小学校校長)
任命	山梨県高等学校長協会	棚橋雅一	学校教育関係 (県立ひばりが丘高等学校校長)

(令和元年七月現在)
出身分野別五十音順

山梨県附属機関の設置に関する条例(抜粋)

(趣旨)

第1条 この条例は、法令又は他の条例に別に定めのあるものを除くほか、地方自治法第138条の4第3項に規定する附属機関に関し、必要な事項を定めるものとする。

(附属機関の設置及び担当事務)

第2条

2 教育委員会の附属機関として、次に掲げる機関を設置する。

(略)

山梨県立美術館協議会

山梨県考古博物館協議会

山梨県地方産業教育審議会

山梨県文学館協議会

3 第2項の規定により設置される附属機関の担任する事務は、別表第1の担任事務欄の掲げるとおりとする。

(組織)

第4条 附属機関は、別表第1、別表第2及び別表第3の委員の定数欄に掲げる数の委員で組織する。

2 委員は、別表第1、別表第2及び別表第3の委員要件欄に掲げる者のうちから、知事(教育委員会の附属機関にあっては、教育委員会。以下同じ。)が任命し、又は委嘱する。

3 委員の任期は、別表第1、別表第2及び別表第3の委員の任期欄に掲げるとおりとする。

(会長等)

第5条 附属機関に、規則で定めるところにより、会長又は委員長(以下「会長」と総称する。)及び副会長又は副委員長(以下「副会長」と総称する。)を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、附属機関を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5 副会長が置かれていない附属機関にあっては、会長に事故あるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 附属機関の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、規則で定める場合を除くほか、委員の2分の1以上が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、附属機関の担当事務、組織及び運営等に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第1(第2条、第4条関係)

2 教育委員会の附属機関

附属機関	山梨県考古博物館協議会
担任事務	博物館法第20条第2項の規定による山梨県立考古博物館の運営に関する事項の調査審議及び意見の具申に関する事務
委員の定数	15人以内
委員の要件	1 学校教育の関係者 2 社会教育の関係者 3 家庭教育の向上に資する活動を行う者 4 学識経験のある者
委員の任期	2年

山梨県附属機関の設置に関する条例施行規則(抜粋)

(趣旨)

第1条 この規則は、山梨県附属機関の設置に関する条例の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(補欠委員の任期)

第3条 委員に欠員を生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 条例第5条第1項の規定により、附属機関に会長及び副会長一人を置く。

(定足数の特例)

第5条 条例第六条第二項の規則で定める場合は、次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議について、同表の定足数欄に掲げる数の委員が出席しなければ開くことができない場合とする。

附属機関	山梨県考古博物館協議会
定足数	過半数

(定例会及び臨時会)

第12条 次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議は、定例会及び臨時会とし、定例会の開催回数は、同表の開催回数欄に掲げるとおりとする。

附属機関	山梨県考古博物館協議会
開催回数	年2回

2 前項に規定する臨時会は、必要に応じて開催する。

(庶務)

第13条 附属機関の庶務は、次の表の所属欄に掲げる所属において処理する。

附属機関	山梨県考古博物館協議会
所属	考古博物館

(委任)

第14条 この規則に定めるもののほか、附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が当該附属機関に諮って定める。

※ 参考

博物館法(抜粋)

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。